

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 公明党議員団
2. 視察期間 令和元年11月20日 から 令和元年11月22日までの 3日間
3. 視察先 ① 兵庫県 姫路市 ② 大阪府 守口市 ③ 大阪府 箕面市 ④ 大阪府 八尾市
4. 視察項目 ① エコパークあぼしについて ② 夜間中学について ③ 箕面コミュニティバスオレンジゆずるバスについて ④ 市議会×高校生プロジェクトについて
5. 参加者 〔委員(議員)〕 三宅智加子 平山伸二 大野哲也 塩塚敏郎 山田修司
〔同行〕なし
〔随員〕なし
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 令和元年 12月 18日 報告者 <u>三宅 智加子</u> 大牟田市議会議長 殿

【別紙】

6. 考察

①兵庫県 姫路市

【人口】530,309人【面積】228.48km²【一般会計】約2215億円

【視察項目】エコパークあぼしについて

★視察事項★エコパークあぼしについて

姫路市では、市民の快適で衛生的な生活環境を維持するため、老朽化したセンターに替わり、ごみの焼却や再資源化を行う施設を整備した。また、環境問題について学べる「網干環境楽習センター」、ごみ焼却の余熱を利用して健康づくりをする「網干健康増進センター『リフレ・チョーサ』」も併設している。

本市においては、RDF発電所の廃止が決まり、将来のごみ処理について検討しなければならない時期に来ており、重要なテーマであると認識しているため、今回視察先として選定した。



◎ごみ焼却施設の概要

(目的) 可燃ごみ及び粗大ごみを破砕・選別した後の可燃物を燃焼・溶融処理する施設

(施設規模) 402t/日 (134t/日 × 3 炉)

(処理方式) 直接溶融・資源化システム(シャフト炉式ガス化溶融炉)

(建築面積) 4,491 m² (延床面積) 9,623 m²

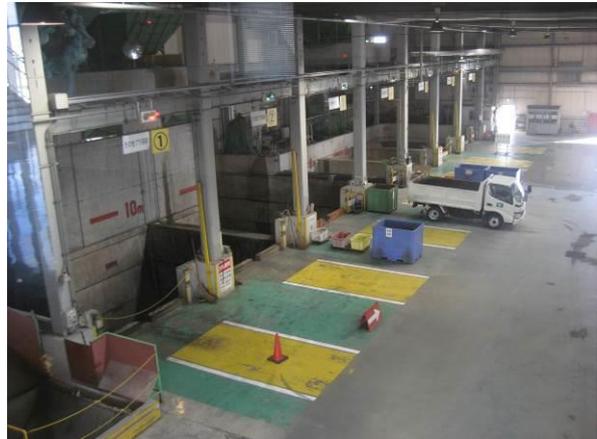
(構造) 地上 5 階 地下 1 階 鉄骨鉄筋コンクリート造り及び一部鉄骨造

◎再資源化施設概要

(目的) 粗大ごみ、不燃ごみ及びびん、ペットボトル等資源物を受入れ、破砕・選別を行い、資源の回収を図る施設

(施設規模) 100t/日

(処理方式) 低速破砕機、高速破砕機、空びん選別ライン、プラペット選別ライン、ストックヤード (建築面積) 3,806 m² (延床面積) 6,292 m²
 (構造) 地上 4 階 鉄骨鉄筋コンクリート造り及び一部鉄骨造



◎所感

- 設計・施工・管理運営に DBO 手法を導入し、特別目的会社として 20 年間の委託をされている。市の費用は年間 10 億円で経費の削減とサービスの向上を図ることは重要である。
- 「網干環境楽習センター」の利用者は年間 20 万人、ごみ焼却の余熱を利用して健康づくりをする「網干健康増進センター」の利用者は、年間 15 万人で利用料は 500 円との事で、関連施設も地元の方との協働としては、大切な役割を果たしていると感じた。

○整備費は、ごみ焼却施設と再資源化施設で、約 210 億円、健康増進センターは 15 億円、その他の費用と用地費を込みで、全体では 300 億円の費用との説明があり、本市においても規模と必要な施設を取捨選択しなければならないと感じた。

②大阪府 守口市

【人口】143,459 人【面積】12.71km²【一般会計】約 636 億円

【視察項目】夜間中学について

★視察事項★ 夜間中学について

夜間中学は、戦争、貧困、差別などさまざまな事情で義務教育を修了できなかった人に、義務教育を保障するためにできた学校で、全国に 31 校、大阪府内に 11 校ある。

守口市立さつき学園夜間学級は、1973 年 4 月 25 日に開設されて以来、年齢も学習経験もさまざまで、戦後の混乱期に学業より仕事を優先しなければならなかった人や、終戦時に中国、「満州」に取り残された日本人やその家族などで小・中学校を卒業できなかった人などが、学びを取り戻すために入学してきている。文部科学省が、その教育的役割から、夜間中学を重視し始めている中、本市においても、学校再編整備の検討の過程で、適正規模適正配置の観点のみでなく、まちづくりや地域の発展など総合的に判断して、九州初の公立夜間中学の設置が計画されているため、守口市の取り組みが大いに参考になるものと考え、視察先として選定した。

◎守口市立さつき学園 夜間学級

現在、約 130 人の生徒が在籍している。授業は公立中学校として、一人ひとりの学習状況や社会的経験に合わせている。人権教育、平和教育、国際理解、多文化共生の観点から訪問された学校、団体も多数あり、昨年度は 40 団体以上(約 750 人)の皆さんと交流した。また、生徒会は「自立、相互理解、連帯」をスローガンにして活動している。地域とのつながりを大切にするため、地域清掃や地域行事にも積極的に参加し、施設 一体型小中一貫校の誕生に向け、地道な取り組みをしている。

◎夜間学級の 1 年

4 月 ・着任式、入学式、始業式、離任式・開設記念日(25 日)・開設記念行事

5 月 ・近畿夜間中学校生徒会連合会新入生歓迎集会、校外学習

6 月 ・各種検診・同窓会合同ハイキング

7 月 ・終業式・夏休み・クリーンウォークラリー

8 月 ・夏休み・補充学習・始業式・生徒募集活動・さつきカーニバル・
生徒募集活動(FM ハナコ)

9 月 ・一泊学舎(校外学習)

10 月 ・文化の部に参加・近畿夜間中学校生徒会連合会運動会

11 月 ・同窓会一泊旅行・守口市新転任教職員研修・近畿夜間中学校生徒会連合会学習会・守口市国際交流フェスティバル

12 月 ・避難訓練・食文化交流会・終業式・冬休み

1 月 ・始業式

2月・近畿夜間中学校生徒会連合会作品展・校内作品展・みんなで語り合う会

3月・卒業式・修了式・春休み

年間を通しての交流（約20団体と交流）

・守口市立寺方小学校との交流・守口市立大久保中学校との交流・大東市立大東中学校との交流・守口市新転任教職員研修・島根県仁多郡奥出雲町立横田中学校との交流・守口市立さつき学園後期課程(旧守口市立第三中学校2年生)との交流 等

◎所感

○日本語のレベル等を考慮して、5学級7グループに分けて授業を展開しているとの事で、複数の授業などで苦勞されていることがわかった。

○外国籍などのお子さんが増えてきており、国の補助を活用しての通訳さんの配置や、電子辞書を活用しての会話などで苦勞しておられた。

○教科書は自作プリントが中心で、手作り感満載の教材だった。

○先生の配置の実態は、異動が少ないのが現状との事だった。

○入学資格の中で、日本語の習得のみを目的にしているものはお断りされていた。

○働いている方がほとんどで、160人中26%の方が、就学援助制度を活用されている。

○給食について大阪府は橋下知事時代に各市で賄うべきとの指導で、市によって対応が分かれているので、よく検討をされてから取り組まれたほうが良いとのアドバイスを頂いた。



③大阪府 箕面市

【人口】135,389人【面積】47.90km²【一般会計】約728億円

【視察項目】箕面コミュニティバスオレンジゆずるバスについて

★視察事項★ 箕面コミュニティバスオレンジゆずるバスについて

一般乗合バスとして、運賃220円(小児110円、70歳以上の高齢者、障害者100円)で買い物、お出かけ、通院、通学、通勤など、誰もが気軽に乗れるバスとして、平成22年9月1日から、公共施設巡回福祉バス(Mバス)に代わって、箕面コミュニティバス『オレンジゆずるバス』を箕面市内で走らせている。本市においても、人口減少が顕著であり、運転免許証を返納される方も増えてきて、高齢者を中心に公共交通の課題を検討すべき時期に来ており、箕面市の取り組みが大いに参考になるものと考え、視察先として選定した。

◎オレンジゆずるバスの運行状況について

(1)月曜～土曜の運行の状況

【利用状況】(1日及び1便あたりの平均利用者数)(平成30年4月～平成30年11月)
1,618人/日 43人/便 最大:1,997人/日(平成30年度実績)

(2)日曜・祝日の運行の状況

【利用状況】(1日及び1便あたりの平均利用者数)(平成30年4月～平成30年11月)
143人/日 12人/便 最大:208人/日(平成30年度実績)

◎地域公共交通網形成計画の作成について

(1)地域公共交通網形成計画作成の目的

持続可能な都市に向け箕面市では、立地適正化計画を作成(平成28年2月)し、「コンパクトなまちづくり」と「公共交通によるネットワーク」に取り組んでいる。とりわけ、「公共交通によるネットワーク」については、北大阪急行線延伸に事業着手したことから、開業に合わせてバス路線の再編を行う必要がある。そのため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき「地域公共交通網形成計画」を作成する。

(2)地域公共交通網形成計画等の進め方

【平成28年度】○各アンケートの実施・データ集計①市民意向の把握(市民アンケート、利用者アンケートの実施)②現在の交通行動の把握

【平成29年度、30年度、31年度】○地域公共交通網形成計画の作成①現状・課題整理②計画の目標・施策等の検討③計画案の作成(運行ルート、運行本数の検討、路線バスとオレンジゆずるバスとの役割分担の検討、関係府県、自治体等との協議調整)④市民・利用者の意見反映(説明会、パブリックコメントの実施)

【平成32年度】○地域公共交通再編実施計画の作成○許認可手続き、バス停設置等を行い、平成32年度末の鉄道開通に合わせた実証運行の開始を目指す。

◎所感

○路線バスの行き届かないところに、コミュニティバスを導入することで、公共交通の利用促進につなげようとする取り組みを丁寧に進めているところが参考になった。

○利用促進に向けて、バス停の改善、車両のラッピング、バスロケーションシステムの導入、マップの作成・配布、情報誌とのタイアップ、エコショッピング制度の導入など工夫されている。



④大阪府 八尾市

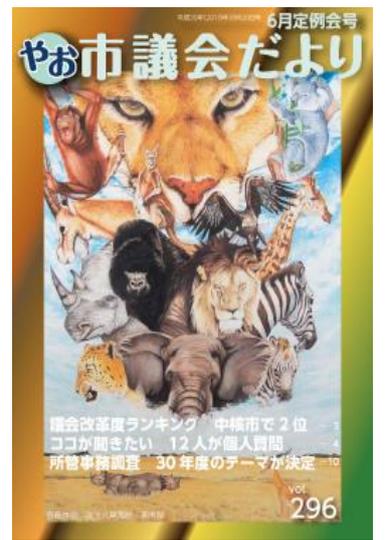
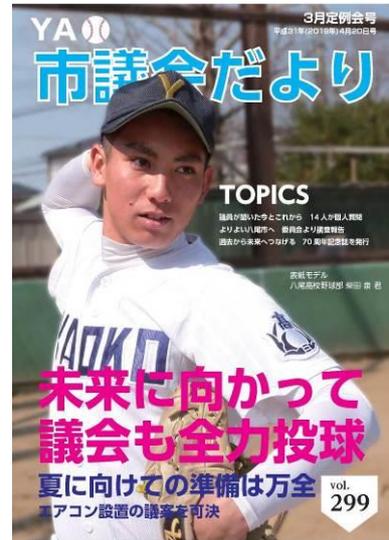
【人口】266,593人【面積】41.72km²【一般会計】約992億円

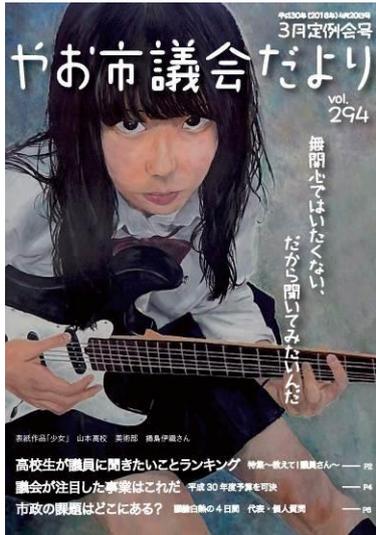
【視察項目】市議会×高校生プロジェクトについて

★視察事項★ 市議会×高校生プロジェクトについて

主権者教育の一環として、議会に若い世代が興味を持ってもらうことを目的として、市議会だよりの表紙・題字を高校生より募集し、美術部や書道部等の作品や活動写真を表紙として採用した。また、高校生に議会や議員に対するアンケートを行い、その疑問に対して議員が回答する特集記事を市議会だよりに掲載するなどの取り組みを実践されている。レイアウト等に関しても高校生からの意見を参考にし、画像やイラストを活用し見やすいものになっている。さらに、取材の際に高校生らに議会や議員に関する出前講座を行うなど、開かれた議会を実践されているため、本市にとっても、今後の若い世代との交流を考える上で参考になると考え、視察先として選定した。

◎高校生とコラボしたこれまでの議会だよりの表紙





◎考察

- 伝える誌面から伝わる誌面へと改革を行い、議会だよりが市民と議会を結びつけるパイプとしての役割を果たすことが大切だと言われ、さまざまな広報媒体を通じて発信をされている。「広報媒体は見てもらわないと意味がない」という言葉が印象に残った。
- 議会開会ポスターを、楽しみながら独自に制作されており、関心を持っていただくきっかけづくりとしては、効果的ではないかと感じた。
- 高校生とのコラボでは、体育会系のクラブより、あまり注目されない文科系のクラブに焦点を当て、書道部、美術部、漫画研究会などを取り上げ、表紙の制作を依頼するとともに、紹介や意見交換を盛んに行うことで、関心を持っていただくことができた。
- 漫画研究会の生徒との取り組みでは、引っ込み思案で、自信のない生徒が、自信を持ちイラストレーターとして進路を決めるなど、うれしいエピソードも生まれた。
- 本市でも、今後さまざまな世代の方や、業種、団体などから意見をお聞きし、議会活動に生かすとともに、議会が真に市民の皆さんの期待に応えられるような活動を展開するための方策を検討する上で、大変に参考になった。

